

2020・2021
年度成果報告書
レポート

トリアギ

イベント

リサーチ報告

2019年度までのゴール

仮説1)技術の検証

離れた2拠点の空間を同じ空間にいるかのように感じられる体験を技術によって創出することは可能ではないか

仮説2) BtoBでの価値検証

仮説1を職場環境で実現すると、離れた2拠点で通常失われるチームの一体感やコミュニケーションの非効率性を取り戻すことができるのではないか

本助成期間

2020・2021年度のゴール

仮説)

tonariは職場環境におけるコミュニケーション課題の解決だけでなく、物理的距離が要因となって発生する社会問題の解決にも適用することができるのではないか

対象テーマ)

- コミュニティ
- 家族
- 教育
- 障害者福祉



moshimo スペース

moshimoスペースとは

Moshimoスペースはtonari製品を常設し、tonariの東京オフィス内と常時接続した多目的イベントスペースです。パートナーと共に小規模な単発イベントを行うことで、低予算かつ柔軟に実証実験を行うことが可能になります。

施設概要

場所: 神奈川県三浦郡葉山町

スペース: 約 43平方メートル

開設期間: 2021年10月-2021年12月

設備: 簡易キッチン、プロジェクター、机
・ 椅子、音響設備、tonari

成果報告

イベント名 朝のヨガクラス

仮説

tonariを使うことで、遠隔地でも価値を損なうことなく身体性を伴うワークショップや教育を実施することができる

実施概要

内容：葉山側からヨガ講師がヨガ教室を実施し、東京・葉山両側で生徒が参加

日程：10月20日

参加人数：7名

講師：Jake Zimmermann

とてもいいイベントだったので、やはり他の生徒と一緒にtonariを使うのは気持ちよかったです。その後、数日後に行われた誕生日イベントで他の生徒と会いましたが、すでに最近会ったか見たかのような感覚でした。tonariを使うことは、オンラインでの交流とは全く異なり、同じ部屋で実際に会って交流したことに近い感覚でした。

成果報告

イベント名
朝のヨガクラス



成果報告

イベント名
手話の課外授業
Silent Voice
デフアカデミー

仮説

遅延、顔や感情のバリア、画質の悪さなど、聴覚障がい者のコミュニケーションにとって必要な品質が既存のWEB会議ツールでは達成できていない。
tonariの品質であれば聴覚障がい者にとっても有用なツールになり得るのではないか。

実施概要

内容：東京側の聴覚障害者と葉山側の小学生で構成された手話ワークショップを実施

パートナー：NPO法人サイレントボイス

日程：11月15日

参加人数：14名

- 葉山5名
- 東京9名

成果

日々手話を使う方にとってとてもコミュニケーションが取りやすいシステムだということがわかった。

- tonariのシェアモニターはメインの画面と分かれているので、プレゼンターを視野に入れたままスライドを見ることができた。これにより、手話を見失うことなく、より高いエンゲージメントが実現できる。他のオンラインツールの様に、ウィンドウの切り替えやデバイスの操作をするの必要がないので、プレゼン資料や手話を使ったコミュニケーションもスムーズに行える。
- 聴覚障害のある子供も先生も、普段のオンライン教室と比べtonariでのクラスはリアルだと言っていた。
- 速さ（遅延100ミリ秒以下、フレームレートも60fps（コマ/秒）の通信体験）は手話を使う人には重要なポイント。
- 手話は通常の会話と異なり、視覚的なもの。大画面だと、お互いに妨げなく多数の会話が行える為、活発な議論が展開された。

成果報告

イベント名
手話の课外授業
Silent Voice
デフアカデミー



仮説

- 被爆者の“生の声”を参加者が対面同様に受け止め、他人事から自分事へ感じてもらえるようなイベントが開催できる
- ユニバーサルデザインで年齢にかかわらず、簡単に使える - ご年配の方から、10歳未満の子供まで、幅広い年齢層のユーザーが直感的にコミュニケーションが取れる

成果報告

イベント名

腹話術で伝える被爆証言
-Peace Boat
おりづるプロジェクト

実施概要

内容：被爆者の小谷孝子さんに腹話術を通して被爆体験に関する講演を開催。

日程：12月6日

パートナー：NGOピースボート

参加人数：16名

- 葉山
 - 3名 大人
 - 5名 子供 (6-12歳)
- 東京
 - 3名 プレゼンター
 - 2名 大人
 - 3名 子供 (7-11歳)

成果

幅広い世代の参加者が共に感動し、共感し、意識を変えてきつかけになる様なエモーショナルな体験できた。

- 対面に近い体験だったからこそ、観客の感情を揺さぶり共同体験につながった。
- 特にtonariの使い方を伝えずに、直感的にコミュニケーションが取れた

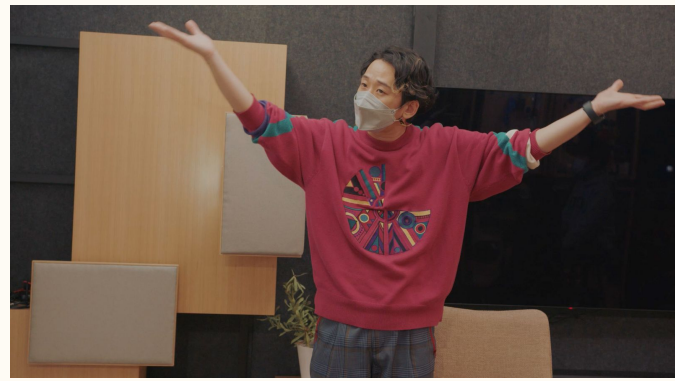
参加者からのフィードバック

(講演者・小谷さん)

「子供たちが目の前にいるかの様な様子で話を聞いていて感動しました。これなら、これからもずっと活動していけるなと感じました。」

成果報告

イベント名
腹話術で伝える被爆証言
-Peace Boat
おりづるプロジェクト



成果報告

イベント名 親子の電子工学

仮説

tonariを活用することで遠く離れた場所からでも子どもから大人まで幅広い年齢を対象に、複雑な技術を教えることができる。

実施概要

内容：エンジニアでありDIYブロガーでもある出川敦之によるELワイヤーを利用したネオンサイン作り

日程：12月11日

参加人数：18名

- 葉山
 - 3名 スタッフ
 - 4名 保護者
 - 5名 子供 (6-12歳)
- 東京
 - 3名 インストラクター/スタッフ
 - 2名 保護者
 - 3名 子供

成果

tonariを通じて、インストラクターと生徒の間でスムーズかつ途切れなくコミュニケーションを取るでワークショップが成功した。

- オリジナルのデザインで制作したため、それぞれの作業スピードにバラつきがあったが、各自先生とステップを確認しながら作業を進めることができたため、スムーズに進めることができた。
- 等身大なので、ホワイトボードを使ったり、手元の映像をシェアモニターに映し出して細かい作業を見せたり、細かな作業を指導することができた。

参加者からのフィードバック

「申し込み時に想像していたよりもずっと複雑な工程で、最初は不安でしたが、講師の方がすぐそこで指示をしたり、アドバイスをくれたので、問題なく進めることができました。」

成果報告

イベント名
親子の電子工学



成果報告

イベント名 プロデューサーを 交えた映画鑑賞& トークセッション

仮説

- 映画鑑賞などカジュアルな遠隔イベントを通して、人が集まり遠隔でもコミュニティが作れる
- 高性能なノイズキャンセリングとシェアモニターの映像のシンクロ技術で、他ではできないグループでの鑑賞が可能
- tonariは常時繋がっているので映画の前・中・後に自由に会話をすることができる - 映画鑑賞をイベント（共同体験化）することができる

実施概要

内容：「TSUKIJI WONDERLAND (2016)」というドキュメンタリー映画のプロデューサーである奥田一葉さんを招き、トークセッション+上映会を開催

日程：12月13日

参加人数：14名

- 葉山
 - 2名 スタッフ
 - 6名 参加者
- 東京
 - 1名 インストラクター/スタッフ
 - 5名 参加者

成果

- 映画のプロデューサーである奥田さんが両側の参加者に映画に登場する人物や背景を上映中に説明し、インタラクティブな上映となった
- 上映後のQ&Aでは、両側の参加者が輪になって（tonariの両側に半円に座る）話が盛り上がった
- 映画の中に出てくる仲卸の方が提供してくれたお刺身を、両側で食べながら映画を見たので、より強い繋がりを感じる共有体験ができた。

参加者からのフィードバック

「映画館に友達と行く醍醐味は、映画が終わったときに、友人と意見交換やその人と話ができることだと思います。tonari越しの上映会も、それに似ていて、自然な会話が楽しめました。ストーリーミングでのイベントでは、なかなかできない体験だなと感じました。「
ーゲスト（映画のプロデューサー） 奥田一葉

成果報告

イベント名
プロデューサーを
交えた映画鑑賞 &
トークセッション



リサーチ レポート

2020年4月10日: tonariは組織内での文化やコミュニケーションをどのように変えていけるか

- <https://blog.tonari.no/changing-communication-and-culture-in-an-organization-jp>
- パイロットパートナーであるフロンティアコンサルティングと実践した第一次パイロットの振り返りと学びを発信

2020年5月18日: 生活習慣づくり：子育てをしながら在宅ワーク

- <https://blog.tonari.no/building-new-routine-remote-working-with-kids-jp>
- 複数の共働きの子育て家庭において、コロナによるリモートワークへの適応方法をインタビュー

2020年6月15日: ポストコロナの「多様で柔軟な働き方」という選択

- <https://blog.tonari.no/work-in-japan-after-covid-19-jp>
- 緊急事態宣言を受けて在宅勤務を経験した、デザインから金融、製造業まで様々な業種でフルタイム勤務をしている25歳から68歳までの7人を対象に、2ヶ月間に渡る縦断インタビューを従業員ヘインタビューを実施

2021年7月2日: 拠点と本社に“一体感”をつくる

- <https://blog.tonari.no/how-frontier-consulting-creates-one-team-culture-across-offices-jp>
- 2020年1月のパイロットプログラム開始依頼、長期にわたってtonariを利用し続けている株式会社フロンティアコンサルティングに対して、長期利用によるチーム内コミュニケーションや組織への影響を調査

2021年12月23日: 社会福祉での実証実験レポート

- <https://blog.tonari.no/tonari-lab-report-jp>
- Moshimoスペースを利用して実施した複数の小規模のワークショップによる実験内容を総括

tonari lab ギャラリー：moshimoスペースでの実験結果の詳細レポート

- <https://tonari-media.notion.site/tonari-lab-9d2a04e3c01e45429e27263824934a82>

PR実績

メディア取材

新聞・雑誌・TV

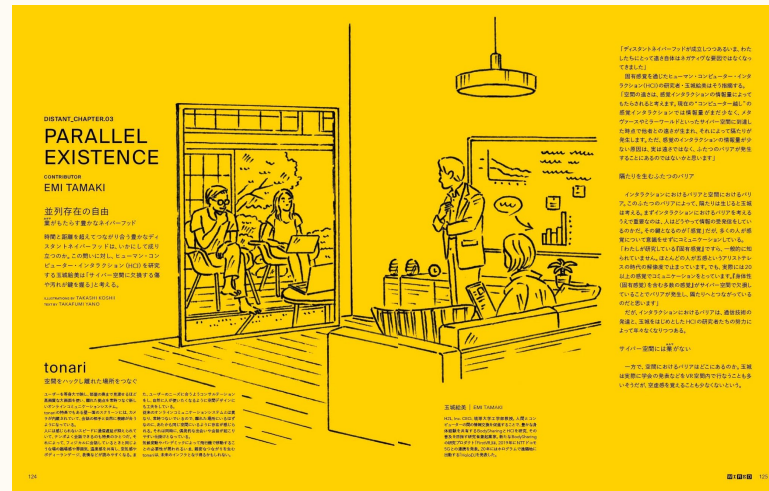
- 日経新聞(2020年11月23日 朝刊、
2021年3月4日朝刊)
- WIRED JAPAN (2021年6月14日発売)
- おはよう日本 (2021年9月21日)

WEBメディア

- 日本財団ジャーナル(2020年5月28日)
- DIAMOND SIGNAL(2020年11月23日)
- WORK MILL (2021年2月2日)
- 知財図鑑 (2021年2月25日)
- HOWHERE (2021年6月24日)
- the bridge(2021年12月23日)
- 横浜経済新聞(2021年12月23日)
- 逗子葉山経済新聞(2021年12月23日)
- 首相官邸英語版アカウントThe Gov't of Japan
 - Twitter(2021年3月2日)
 - Facebook (同年3月1日)

その他、プレスリリースが50メディアに転載

メディア掲載



グーグル元同僚が共同創業、「じゃんけん」も余裕な低遅延・等身大のビデオ会議システム「tonari」

ムコハツカワカコ | 編集・ライター
2020/11/23 06:00 | ニュース・ビジネス



この記事は会員限定です

スタートアップのtonari、等身大システムを本格生産

スタートアップ [+ フォロワーする](#)
2021年3月3日 14:15 [有料会員限定]

📌 保存 📧 📄 🐦 📘 📌

スタートアップのtonari（東京・渋谷）は離れた2拠点をつないで互いに相手方の等身大の映像を映し出すシステムの生産を本格化させる。年内に国内10社に納入する。このシステムはあたかも相手が隣にいるような自然なコミュニケーションがとれるのが特色。量産のノウハウを蓄えて普及をめざす。

システムは画面の中央に微小な高解像度カメラを埋め込み、やり取りする相手と自然に視線が合う仕組み。音声や映像の伝送にタイ...

thank you
very much